



# さっぽろ神経内科クリニック

<http://www.ceres21.jp/>

CEReS Incorporated Medical Institution / Sapporo Neurology Clinic

いつもあなたと、  
一緒に。



## 神経難病を患われている方やご家族の生活を支えるサポーターでありたい

医療法人セレスは、そんな思いで開設されました。

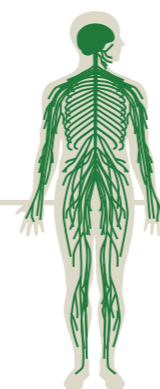
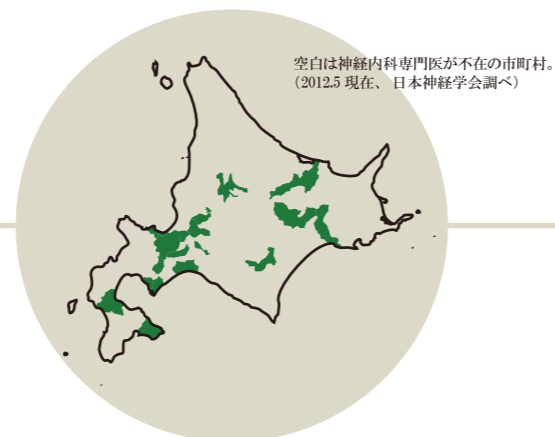
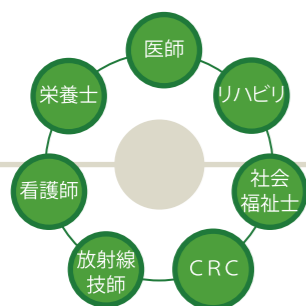
さっぽろ神経内科クリニックは、セレスでの神経難病医療提供の核としてみなさんと歩み続けられるよう努力します。

神経内科診療の対象疾患は非常に多岐にわたり、その診断には十分な経験に裏付けられた高度な専門性が要求されます。また神経難病医療は、その疾患の特徴ゆえに継続的に支援することが求められますし、生活に密接な関係がある症状や障がいは、一人一人非常に多様であり、患者さんの年齢を含めた社会的環境も多様です。

このような特徴を持つ神経内科に関わる医療を提供するには、医師、看護師、リハビリテーション、社会福祉士などの医療や福祉に関わる様々な職能が有機的かつ長期的展望のもとに協力する、いわゆるチーム医療が大切です。しかし、神経難病に関してはこのような医療を提供する医療機関はきわめて少ないのが現状です。

私達は専門性のある医療をチームで、そして継続して提供するべく努力していきます。

院長 深澤俊行



生活習慣病のコントロール

インフルエンザ・肺炎球菌

各種健康診断・診断書

## 神経難病を診る・看る

多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などに代表される神経難病の診療科は、神経内科が専門です。当院で診療に当たる医師は神経内科専門医であり、神経難病医療に長年従事してきた医師たちです。

神経難病医療を提供する上で、看護師、リハビリテーションスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、社会福祉士らのコメディカルスタッフによる、チームとしての医療の提供は非常に重要です。

当院の外来には、神経難病の患者さんが道内各地から受診されます。また、入院される方の病気のほぼ100%が神経難病です。コメディカルスタッフは、このような環境下で、日々神経難病患者さんや家族に医療を提供しています。大規模な医療機関のように、看護師のローテーション（他科への定期的な配置転換）がないため、継続的に神経難病に関わる経験を蓄積し、よりよい治療やケアを提供するために研鑽することが可能な環境です。

## 多様な受診方法

神経難病を患われた方の生活は様々です。当然、難病医療の受診の仕方もいろいろあって良いと思います。当院では、平日の外来受診の他に、お仕事をされている方が受診しやすいよう、または受診のための介護がしやすいよう、日曜日の診療を行っています。

患者さんに来ていただく外来受診の他、ご自宅や入所されている施設へ伺って診療する訪問診療や急変時の往診\*、遠方にお住まいの方で通院に数時間もかかる場合の遠隔診療\*\*など、受診方法の選択肢を用意しています。

神経内科専門医の所在は都市部に集中しています。北海道はその広大な面積と交通事情により、都市部から離れた地域に住まわれている方々が、神経内科専門医を受診するためには、長距離の移動を余儀なくされます。私達はそういった環境にある方々に、神経内科専門医の受診機会を少しでも提供出来ないかという視点から、当院の医師が地方の医療機関に出張して診療する試みを行っています。

\* 訪問診療の診療計画に同意されている場合  
\*\* インターネットを利用した DtoP

## 神経内科の利用の仕方

神経内科という診療科は、中枢神経（脳、脊髄、視神経）、末梢神経、筋肉に起こる病気を診療するところです。神経や筋肉は全身に張り巡らされています。これらの場所に病変が生じた場合には、体に現れる症状は非常に様々です。一般的にはしびれ、感覚が鈍い、めまい、物が二重に見える、ふらつき、ふるえ、手足に力が入らない、喋りづらい、ぼーっとしているなどがあります。

症状が出た場所と原因のある場所が、必ず同じとは限りません。「手がしびれている」という症状を例にとれば、原因が手にあるとは限らないということです。手首や肘、肩の骨や近くを通る神経・血管に原因があるかもしれませんし、首の骨や脊髄、脳に原因があるかもしれません。或いは、原因が複数にまたがって存在することもあります。

神経内科では一つの症状から、体の一部ではなく全身を診て、必要な場合に外科などを紹介します。ですから、何か体に症状が出た場合は、まず神経内科を受診することが本来の受診行動であると、私達は考えます。

## 地域のホームドクターとして

神経内科は、たくさんの病気や症状を診療する科です。多くの人が日常的に経験している頭痛も、神経内科が専門の診療科です。

また、神経内科で診療する疾患の中には、脳血管障害や末梢神経障害などのように、その原因が生活習慣病であるものが少なくありません。ですから、生活習慣病である高血圧や糖尿病、脂質代謝異常症のように継続的な受診が必要な、いわゆる内科疾患のコントロールも、神経内科では重要な診療ポイントです。

その他、各種健康診断やインフルエンザ・肺炎球菌の予防接種を含めて、地域の皆様のかかりつけ医として、医療を提供しています。





## リハビリテーション 薬物治療と並ぶ大きな治療の柱

さっぽろ神経内科クリニックのリハビリテーションでは、理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語療法（ST）を実施しています。多発性硬化症やパーキンソン病などの神経難病患者さんに対するリハビリテーションが約100%を占め、濃密に神経難病リハビリテーションを経験しているスタッフは、患者さんに合ったリハビリテーションを提供します。

神経内科における神経難病への治療は、薬物治療とリハビリテーションの2つの柱が欠かせません。リハビリテーションは、症状が軽い状態を維持し、病気の進行や合併症の予防に大きな役割を担い、日々の生活の質を保ちます。

理学療法では歩行や床上運動を通して、運動機能の維持や改善を図ります。作業療法では、生活動作の訓練や手芸などを通して手指の細かい動作の訓練や心理面の安定を図ります。言語療法では、言葉を話すための訓練や、食事を安全に食べられる

ための訓練を行います。

リハビリテーション課では、単に身体機能や動作能力の改善だけでなく、精神面のフォローや在宅生活を支えるための日常生活動作向上をサポートすることを念頭にリハビリテーションを提供しています。



(上) 作業療法で実施している手芸の一部。患者さんに合った訓練を選択する

(下) 言語聴覚士。言語訓練や嚥下訓練を行う



## 社会福祉課 複雑な公的制度の相談窓口

外来・入院を問わず、社会福祉士が患者さんからの様々な相談をお受けしています。

多発性硬化症やパーキンソン病といった神経難病を持ちながら、これまでの生活の質を維持したり、病気や症状に合わせて生活のスタイルを変化させていくためには、公的制度や各種サービスの利用は欠かせません。しかし、様々な制度やサービスが複雑に存在するため、患者さん自身が自分に合ったサービスを見つけることは容易ではありませんし、手続きの準備もわかりにくいことが沢山あります。

社会福祉士は患者さんが必要とする制度やサービスを探し、よりよい生活を送るための方法を一緒に考え、制度などの手続きや利用方法をご説明します。

その他、病気や生活に関わる様々な相談の窓口として日々の業務を行っています。

## 治験事業課

多発性硬化症治療薬の臨床試験（治験）を実施しています。近年、神経難病の診断・治療は進歩しています。特に多発性硬化症の治療に使用される薬剤の開発は進んでおり、治療の選択肢が増えることは、患者さんにとって大変意義があります。

当院では治験コーディネーター（CRC）が在籍し、安全に臨床試験を行えるよう支援しています。これまでにインターフェロンβやグラチラマー酢酸塩、免疫グロブリンなどの臨床試験を実施しました。

(下) 治験業務にあたるCRC



## 外来・病棟看護



## 検査・栄養・医事



### 看護部病棟

当院の病床数は19床で、プライマリーナーシングを採用し、2交代制で看護を実施しています。日勤は2～3名、夜勤は2名体制で看護に当たっています。

アットホームな雰囲気でお患者さんの笑い声があふれる病棟です。どの患者さんにおいても治療・予防・リハビリ・検査と言った目的がありますが、これらを安心して患者さん一人一人が意欲的に取り組めるように心がけています。

起立歩行障害、構音障害、嚥下障害といった日常生活動作での援助を必要とされる方が多く、少しでも負担が軽減できるような工夫、援助をと考えています。

また、他職種と連携をとり、個々にあった治療やリハビリ、在宅生活に向けての援助をすることで、患者さんが安心して病気と共に歩んでいく気持ちを育めるお手伝いが、少しでもできたらと考えています。

### 看護部外来

外来での看護は一般的に診察の介助、処置、検査等を通して、受診された患者さんがスムーズに診療を受けることができるように援助すること、円滑な医療を受けることができるように、医師や他の医療スタッフとの連携に努めるなどの役割を担っています。

当院の外来でも神経難病の診療が多くを占めています。慢性、時に進行性である神経難病の経過を考えると、長期にわたる在宅生活を支えていくという意味で外来看護の役割は非常に重要と感じています。

### 放射線科

当院は一般撮影（X線）装置とMRI装置を備えています。当院のMRI装置は従来からある筒型ではなく、オープン型のため開口部も広く開放感があります。閉所恐怖の方は従来の筒型MRI装置よりも安心して検査を行うことが可能になりました。検査中の音も、より静かになり耳栓がなくても検査が可能の方が多くなりました。

検査を受ける患者さんの身になり緊張感をほぐしながら説明を行い、患者さんの体調を考え楽な姿勢で検査がおこなえるように配慮して検査を行っています。患者さんの事を第一に考え、安心して検査を受けることができるような対応を心掛け、より最適な検査が行えるようにたえず技術の研鑽をしていきたいと思っています。

### 栄養科・医事課 他

病棟での食事の提供は、管理栄養士の計画のもとに、医師や看護師が共同で行っています。また、嚥下障害などの患者さんに適した食事を提供しています。

その他、受付や医事業務を行う医事課や、電子カルテなどのシステム管理や様々な企画を行う企画課など、沢山の職員が患者さん、ご家族、地域の皆さんをサポートしています。

(下) 事務室での業務風景



# 施設案内

1 当院外観



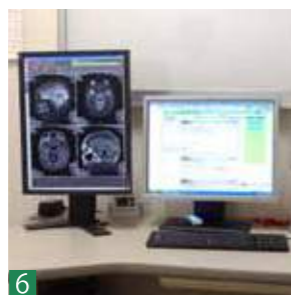
2 ロビー  
3 受付窓口



4 第2診察室  
5 リハビリ室



6 電子カルテ  
7 MRI  
8 相談室



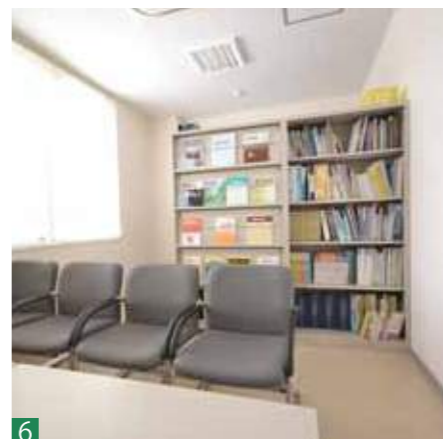
9 一般撮影(X線)装置  
10 生理検査室  
11 処置室



1 病室  
2 ナースステーション



3 バリアフリートイレ  
4 浴室



5 食堂  
6 職員用図書室



7~8 夏祭り  
9~10 職員によるガーデニング  
11~12 クリスマス



入院されている方や外来通院される方々にとって、さっぽろ神経内科クリニックで過ごす時間が少しでも明るいものであるように、イベントなどを実施しています。

## 院内教育・研究

医療のプロフェッショナルとして日々の研鑽と努力を積み重ね、より良い神経難病医療の提供を実現するよう、様々な取り組みを実施しています。

### 院内教育

全職員を対象に、神経難病医療を提供するために必要な基本的な事項について、教育を行っています。

#### 【主な内容】

神経内科概論 / 神経難病概論 / 神経系 / 免疫系 / 社会資源 / 神経難病各論 / 救急蘇生法 / 診療報酬 / 他



### MSエキスパートナースプログラム (MS-NEXT)

全国でも例のない、多発性硬化症看護を専門的に学習するための当院独自のプログラム MS-NEXT により、知識や経験を得る機会が少ない多発性硬化症について、病態だけでなく看護そのものを含めて体系的に学習し、より良い多発性硬化症看護を考える糸口とします。



### リハビリテーション課 新人教育プログラム

神経難病におけるリハビリテーションの役割は、治療や生活の視点からますます重要になっています。新卒採用のリハビリテーションスタッフが円滑に能力を身につけ、業務を展開できるよう、新人教育プログラムを実施しています。

#### 【主な内容】

方針 / 接遇 / 日常業務 / 診療報酬 / 福祉用具 / 家屋評価 / 住宅改修 / 各種リハビリテーション / 疾患別リハビリテーション / 他



### 研究・報告・講演の支援

神経難病は患者数が少ない疾患が多く、特にコメディカル分野においては、研究や症例の報告が少ない状況にあります。

当院では、職員に対して神経難病に関する研究や報告、講演などの支援を行い、神経難病医療の質の向上に貢献しています。

### 日本神経学会教育関連施設

日本神経学会の教育関連施設として認定されています。神経内科の医師を養成する施設として、実習生の受け入れを行っています。

## 社会活動・地域貢献

神経難病や地域医療の提供だけでなく、社会の一員である組織としての視点をもとに、社会への貢献を行っています。

### 医療公開講座

「神経内科」という診療科は、残念ながら世間一般にその存在や役割を正しく、広く知られているとは言えない現状があります。当院では、「神経内科」を皆様に良く知っていただくために、東区を中心として一般市民を対象に、医療公開講座を開催しています。医療公開講座では講演の他、看護師による健康相談も実施しています。

#### 【これまでの主な公開講座】

神経内科で診る病気 / パーキンソン病治療のエッセンス / むせにくい食べ方・介助の仕方 / 冬を乗り越えよう！！  
家庭でできる筋力トレーニング / 言語障害のリハビリ 聞き方・話し方 / パーキンソン病の家庭でできるリハビリ  
テーション / 指先と頭のリハビリ / 手足のしびれ～原因と検査・治療～ / 脳が知らせる危険のサイン / 他



### 専門医不在地域での出張診療

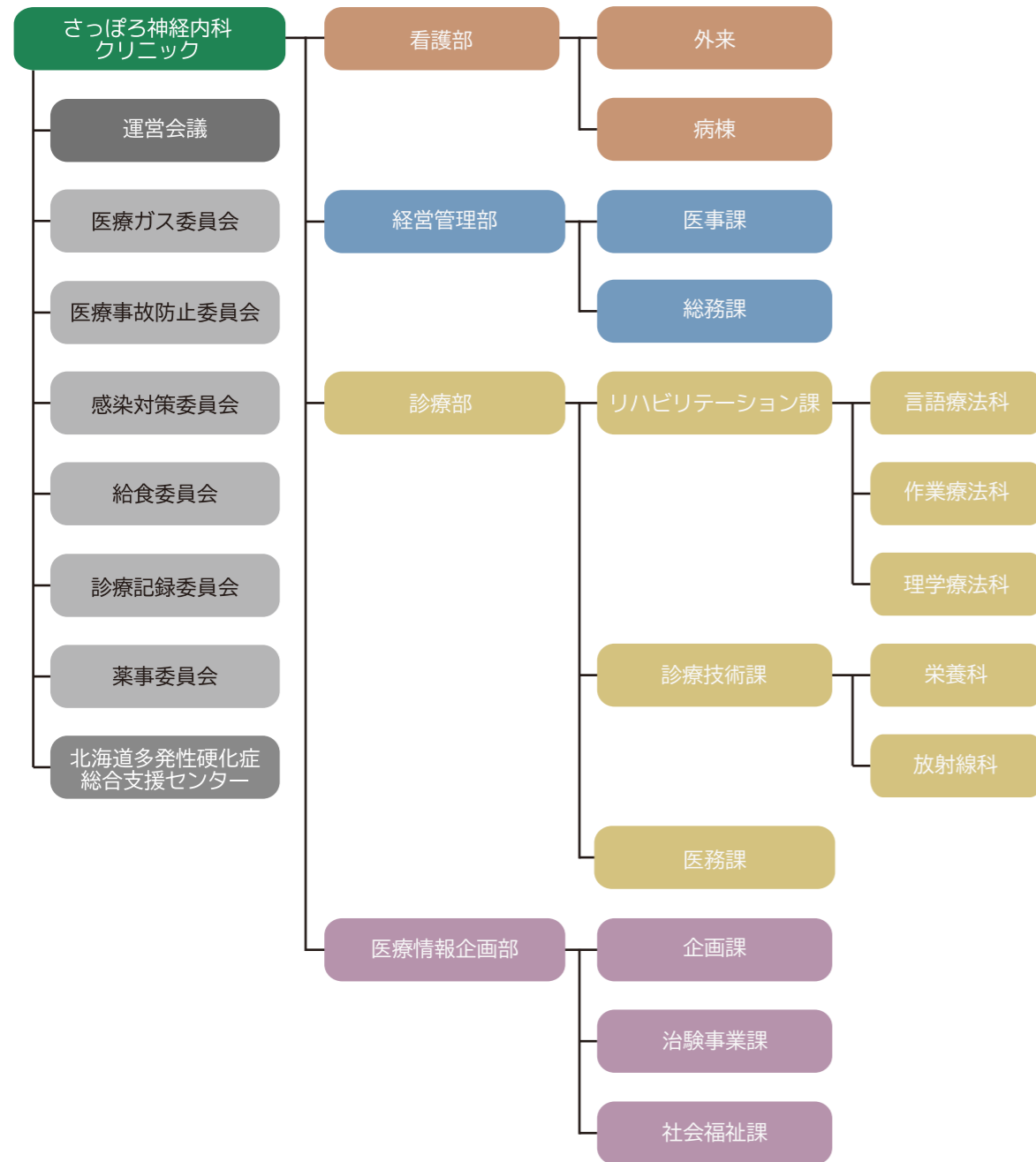
北海道は広大な面積に神経難病患者さんが広く分布しているのに対し、専門医療機関は都市部に偏っています。従って、地方の方が神経内科専門医を受診する機会が無かったり、長距離の移動を経て受診する状況にあります。

当院では、都市部から離れた地域の方々に神経内科専門医による診療を提供する方法を模索し、地方の医療機関に出向いて診療する出張診療を実施しています。

### 東日本大震災

さっぽろ神経内科クリニックは、東日本大震災で被災された遺児の方に、あしなが育英会を通して就学費用の支援を行いました。決して大きな規模の支援ではありませんが、今後も継続して支援を行っていきます。

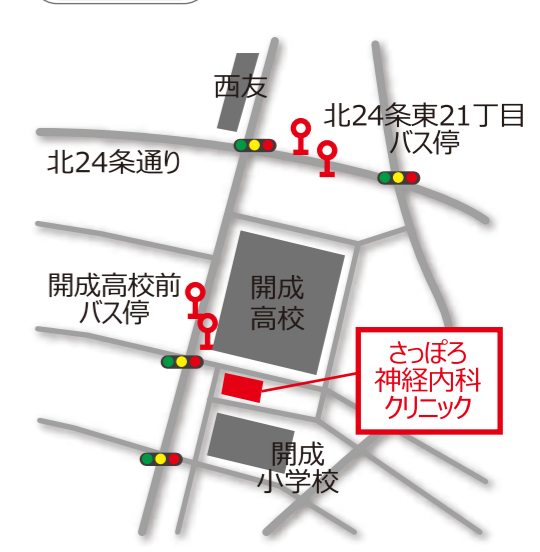
さっぽろ神経内科クリニック組織図



東区周辺図



当院周辺図



交通機関

地下鉄東豊線  
元町駅より徒歩 15分  
環状通東駅より徒歩 20分

駐車場 あり 約 10 台

北海道中央バス  
◇東 70 番 (元町線)  
北 24 条東 21 丁目下車、徒歩 4 分  
◇東 61 番 (丘珠線)  
◇東 79 番 (北札幌線)  
開成高校前下車、徒歩 1 分

名 称 医療法人セレス さっぽろ神経内科クリニック  
 所 在 地 〒065-0021 札幌市東区北 21 条東 21 丁目 2-17  
 電 話 (代) 011-780-2233  
 管 理 者 理事長・院長 深澤俊行  
 病院種別 有床診療所 (19 床)  
 診療科目 神経内科 内科 リハビリテーション科  
 主な設備 MRI X線装置 リハビリテーション室 筋電図・誘発電位装置 電子カルテ 他

外来診療 日・月・火・水・木・金 (予約可)  
 午前 9:00~12:00 午後 14:00~18:00  
 診療受付 診療日の 8:30 ~ 17:30  
 休 診 日 土曜日・平日の祝祭日 他  
 訪問診療 火・水・木  
 14:00~18:00





<http://www.ceres21.jp/>